受講生の声!!!　H28 年度受講生から

総合病院水戸協同病院　総合診療科
梶　有貴（医師）

私は一般市中病院の総合診療科の卒後 5 年目の医師をしております。一般にはまだ若手と呼ばれる身分ではありますが、責任がかかるポジションにつき病院全体を考える視点が求められてくる年代でもあります。本コースを受講する前は、病院内にある複雑な医療をいかに評価し改善していく方法はないものかと悩んでいました。医学部では卒前教育はもちろんのこと、卒後教育においても質改善・医療安全・感染対策についての学ぶカリキュラムは全く、手探りで行うしかない現状があったのです。

そのような中で参加させていただいた本講座は自分の求めているものを体系的に教えていただくすばらしい機会となりました。DPC データを使った解析を通して、「この病院はこういう対応をした方がいいかもしれない。」「この診療科はこんな特徴があるかもしれない」と今まで自分の中で"漠然と"抱いていた仮説たちを、実際に数字に出して確認できたときの感動は忘れられません。

今後、今までになかった情報が追加され、今まで見えてこなかった医療の姿が現れてくることになると思います。未来の医療を担う若手の医師として、本コースで学んだことを活かしながら日本の医療の質を改善する方法を発信していければと考えています。QMCと講師の皆様にこの場を借りて感謝を申し上げます。

国立国際医療研究センター病院　薬剤部
逸見　佳代（薬剤師）

私は、ICU 病棟薬剤師・緩和ケアチーム担当薬剤師として勤務し、周術期関連業務の立ち上げに携わっています。データの見える化の必要性について、常に感じてはいるものの、身近なものとして同僚に認識してもらうには、どうすればいいか？と悩んでいました。

PDCA 医療クオリティマネージャー養成プログラムは、PDCA サイクルを実践することを目的とし、多くの角度から例示していただくことのできる貴重な場でした。中でも DPC データを用いた医療管理の方法が、とても参考になりました。DPC データがあると言っても、コメディカルの私には、簡単に扱えるデータではありません。しかし、逆に言えば、具体的な案を示すことで、利用できる能力があることを関係者に示すことはデータの使用には必須であり、自分の強みにもなるのではないかと考えております。

多施設見学や医師・医療事務・看護師・研究者といった多彩な顔ぶれの受講生との考え方を知ることで、考え方を深めることができました。

PC スキルがなくご迷惑をかけながらも、丁寧にご指導いただいた先生方に大変感謝いたしております。ありがとうございました。

東京医科大学　看護部長室
鎌田　智恵子（看護師）

日頃行っている看護をデータとして可視化・分析・評価し改善活動につなげたい、パス委員としてデータを活用してパスの改善を行いたい、と考え受講しました。

実習病院の病院長が「PDCA サイクルを回すのは短期間がよい」と言っていたのを聞き、評価のサイクルを短くしました。今までは半年に１回評価を行っていましたが、毎月データを出すだけでなく計画通りに進んでいるのか否かまで考え、対応が遅れている目標に早めに対処することができるようになりました。ワークショップで自分の課題解決に取り組むことで、アンケートで取った意見をより客観的なデータとしてまとめるやり方を学ぶことができました。今後、看護を評価していくときに同じようにデータをまとめて分析できると考えています。

最後に伏見先生が「これで少しはデータ分析アレルギーがなくなったでしょう」とおっしゃっていました。いろいろな分析手法を学び、活用するところまではまだまだですが、データ分析に対する抵抗感は減ったと思います。また、講義だけでなく、他の受講生の発表を聞くことで、視野が広がり勉強になりました。仕事が終わらず開始時間に間に合わなかったり、会議で出席できないこともあり、大変でしたががんばって受講してよかったと思っています。同期のメンバーにも恵まれたと感謝しています。

講座への要望としては、途中の作業を自宅に持ち帰ってできないことがあったので、可能であれば自宅で作業できるようになると、遅れた分を埋められるかなと思いました。講義の資料を翌日以降もいただけたので、それは助かりました。また、時間をとって先生に相談にのっていただけて助かりました。かなりの落ちこぼれでしたが、否定されることなく温かく見守っていただけたので、何とか最後まで（体調不良で発表できませんでしたが）受講することができました。有難うございました。

国立病院機構　東京医療センター　事務部
遠山　義彦（診療情報管理士）

平成２８年度「ＰＤＣＡ医療クオリティマネージャー養成講座」を受講致しました。本講座での「データを分析する」授業においては、病院で作成されたＤＰＣデータや医療安全で集約しているデータ等を実際に利用させて頂き分析を行いました。

また課外授業において、ＰＤＣＡサイクルに基づく「医療の質」の改善に向け、国立病院機構で先行的に取り組んでいる施設での「院内評価の場」を見学させて頂きました。通常ではなかなか見学することができない大変貴重なデスカッションの場面を、和やかな中にも緊張感が漂う雰囲気に身が引き締まる思いで拝見しました。

このような充実した講義より「医療の質」改善に向けて、国立病院機構の臨床評価指標を参考に、勤務する自院の状況をデータ分析によって把握すること、また課外授業から改善に向けて多職種の連携をもって機能的に活動の進め方を学ぶことができました。

今後もＤＰＣデータや病院内に蓄積されているデータを利用し、病院経営に向けた分析だけでなく、医療の質を計測するための基礎資料として「臨床評価指標」の計測方法を用いた「医療の質」向上へ動き出せる資料を作成して参りたいと思います。